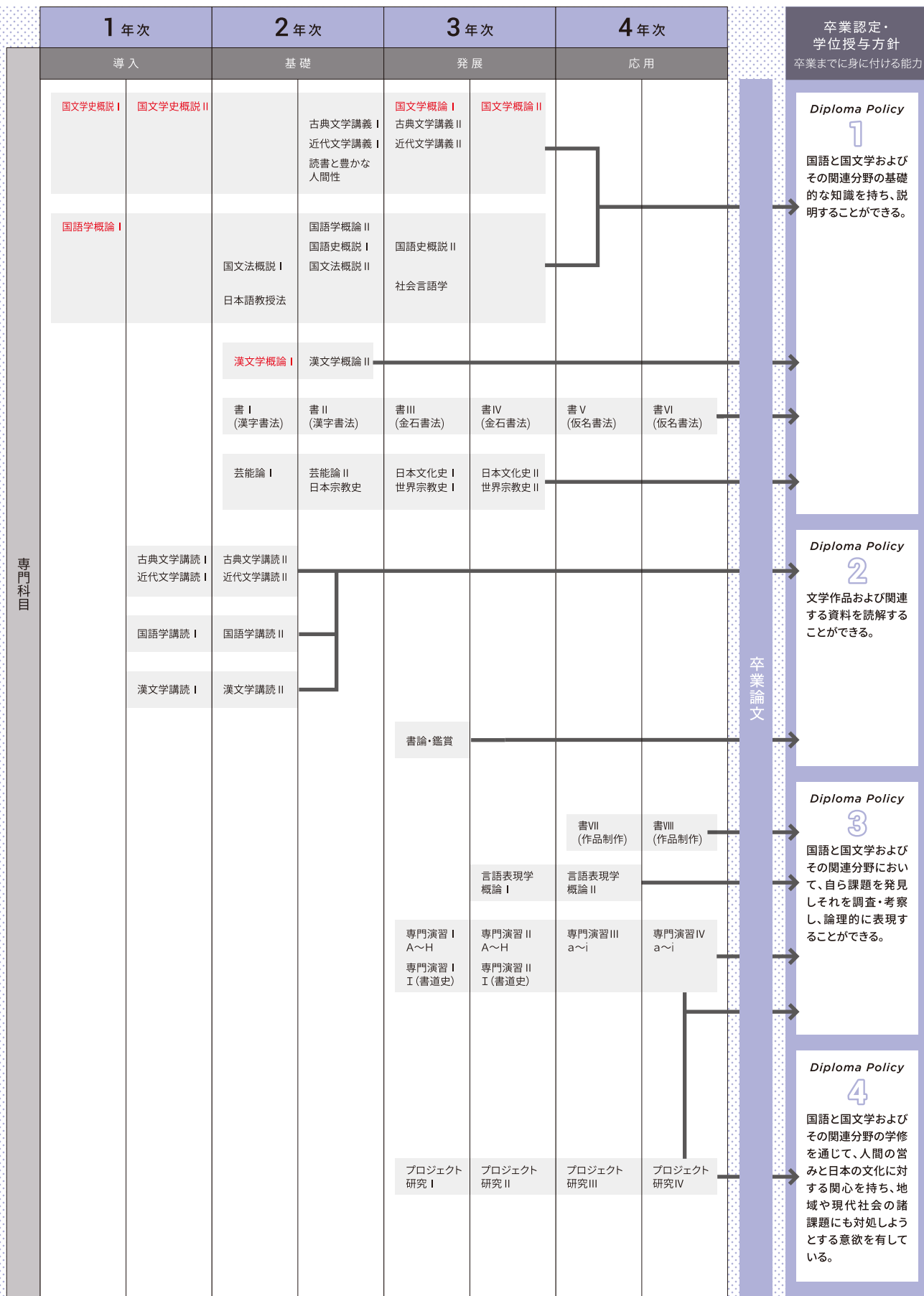


4年間の学びの流れ [令和3年度カリキュラム]

「国文学」「国語学」「漢文学」「書道」などの9分野を学びます。



赤字:重要科目

注目の科目

古典文学講義 I A

『古事記』を題材に、
上代文学の特質を考察

『古事記』を読み進めながら、作品への理解を深めます。上巻の序文と大国主神、中巻の倭建命に重点を置き、あわせて上代文学の特質についても考察。『古事記』の基礎的な事柄について説明できることをめざします。



書論・鑑賞

書を通じて
民族・地域性まで深く理解

書論を読み解きながら、その時代における芸術論や書法・書体に関する概念などについて考察。中国と日本の書に対する考え方の違いを学ぶことにより、民族的・地域的なものとの関わりまで深く理解します。



近代文学講義 I B

近代文学作品の
受容を考える

近代文学作品はどのように生み出され、私たち読者のもとに届き、広く受容されるようになるのでしょうか。書物の生産や流通、読書環境などのトピックスから、近代文学研究の問題を読者の視点から考えます。

専門演習 I B

中古文学の研究に
必要なスキルを習得

『古今和歌集』と『源氏物語』を題材に、韻文と散文について考察。一語一語にこだわりながら、どのように読解するのか、自分で調べ、考え、仲間たちと意見交換。研究に必要な基礎力を身に付けます。

国語学概論 I

日本語の捉え方について
概括的に理解

国語学はことばの海をゆく羅針盤と海図。言葉の海の航海術を知れば目的の港へ到達できます。本講義では、音声・音韻・語彙について、言語科学の立場からことばのもつ体系や規則性を究明する方法を学びます。

漢文学講読 I・II

漢文の基礎的文法を理解し、
読解力を養成

『太平広記』等の中から短文を取り上げ、辞書を使って読み解いていくことで漢文読解の習熟をめざします。最終的には『十八史略』から三国時代の文章を取り上げ、訓点がある程度省略された文章の読解に挑戦します。

上代文学 大島 信生 教授	日本語学 齋藤 平 教授
中古文学 吉井 祥 助教	書道 上小倉 一志 教授
中世文学 深津 睦夫 教授	漢文学 松下 道信 教授
近世文学 田中 康二 教授	図書館学 千邑 淳子 准教授
近現代文学/図書館情報学 岡野 裕行 准教授	

最近の主な卒業論文のテーマ

上代 ●万葉集、遣新羅使歌群の研究
●上代における月と変若水の研究

中古 ●『源氏物語』の研究―物の怪出現の要因について―
●『源氏物語』の研究―二人の養母をめぐる―

近世 ●『百人一首』近世受容史の研究
●松尾芭蕉の研究 ●近世怪談の研究

近代 ●国木田独步『春の鳥』論―「私」が讚美しようとしたものについて―
●小川未明『赤い蠟燭と人魚』論―「人魚」「人間」「神様」の関係性をめぐって―
●パノラマとセメント―江戸川乱歩『パノラマ島奇譚』と同時代作品より―

現代 ●「絵本」の研究―教育現場における「絵本」の活用方法について―
●小説の中の図書館について

国語学 ●類聚名義抄の研究―「況」の訓の出典をめぐる―
●志摩方言の研究―魚類の地名について―

漢文学 ●趙孟頫の生涯と書の関係について
●『三国志演義』における吉凶の兆しについて

書道 ●呉昌碩について―行書作品に影響した篆書筆法―
●蘇軾についての研究―生涯と書作品との関係性―